

・以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

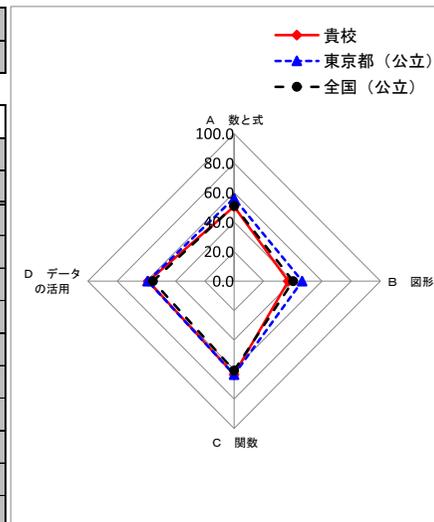
※ただし、4月18日に調査を実施していない学校については、4月19日以降4月30日までに実施した調査の結果を集計した値とする。

**集計結果**

対象生徒数	江戸川区立小岩第四中学校	東京都（公立）	全国（公立）
	127	70,949	875,952

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
			貴校	東京都（公立）	全国（公立）
全体			53	57	52.5
学習指導要領の領域	A 数と式	5	50.6	56.2	51.1
	B 図形	3	37.0	46.5	40.3
	C 関数	4	63.4	63.5	60.7
	D データの活用	4	58.7	59.1	55.5
評価の観点	知識・技能	11	64.6	67.3	63.1
	思考・判断・表現	5	28.3	34.2	29.3
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	5	61.3	62.4	58.5
	短答式	6	67.3	71.3	67.0
	記述式	5	28.3	34.2	29.3

**<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>**



**結果分析・課題**

○「数と式」の領域では、都・全国の平均を下回った。特に「統合的・発展的に考え、成り立つことを見だし、数学的な表現を用いて説明すること」の項目では多くの生徒が誤答している。この項目については、2年1学期に学習した後の学習機会が不足していたことが原因と考えられる。

○「図形」の領域では、都・全国の平均を下回った。特に「筋道を立てて考え、証明すること」の項目で多くの生徒が誤答している。「図形の性質に関する証明」については、苦手意識を持つ生徒が多く、それがいまだに払しょくされていないと考えられる。

○「関数」の領域では、全国の平均を上回った。2年の後半、この領域に重点を置いて演習を重ねた成果が出たものと考えられる。特に「1次関数について、式とグラフの特徴を理解して関連づける」という項目では、繰り返し練習してきたこともあり、正答率が高かった。

○「データの活用」の領域においても、全国の平均を上回った。データを「箱ひげ図」にまとめることは、2年の3学期に学習しており、記憶に新しかったようである。

○最近学習した領域の正答率が高かったということから、授業を通して理解は深まっているが、授業で扱ってから時間が経っている領域についての定着が不十分であるということが明らかになった。学習内容を確実に身に付けるための復習問題を繰り返すことにより、定着を図っていくことが課題であると考えられる。

**授業改善のポイント**

○「数と式」に関する内容では、計算のみならず、演算のもつ性質そのものを扱う問題や、式そのものの意味を考える問題を扱い、定着を図る。

○「図形」の領域では、三角形の合同を証明する問題を多く扱う。その中で、仮定の読み取りや、どんな合同条件ならば証明できるかの判断など、問題解決までの思考を整理させる取り組みを多くする。

○「関数」の領域では、グラフからの読み取りや説明をする問題を多く扱う。また生徒同士で伝え合う活動も設定し、数学术語を使いわかりやすく相手に伝えることも意識させる。

○「データの活用」の領域では、表やグラフの読み取りや説明をする問題を多く扱う。また、自分たちで資料をまとめ、それを分析する活動を行うことが大切であると考えられる。

○現学習内容を定着するための工夫を継続するとともに、既習事項についても、授業内または課題として与える形で復習問題を繰り返すことにより、定着を図る必要がある。